

# 飽水管理の継続 高温登熟を想定して収穫適期を判断（刈遅れに注意）

## 1 水管理のポイント

### (1) 基本的な水管理

- ア 地域の利水状況を確認し、出穂後25日以降まで飽水管理を継続する。
- イ 用水確保が可能な地域では地耐力の確保に配慮しながら出穂期30日後まで飽水管理を継続し、継続できない場合や成熟期が遅い品種は灌水可能期間の終期に十分湛水する等して土壌水分を保持する。

### (2) フェーン等が予想された場合

- ア 極端な高温やフェーンが予想される場合は、地域の用水計画に応じて早めに湛水する。
- イ 高温時の長期間の湛水は根腐れを助長するため避ける。

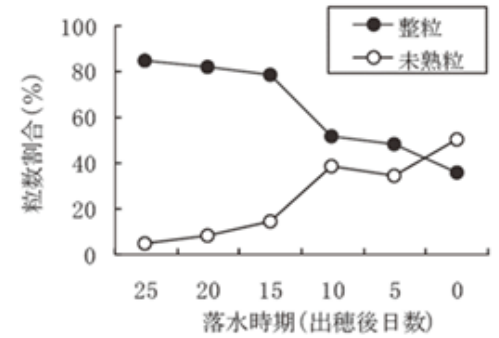


図1 落水時期と品質

## 2 品種別の収穫適期のめやす

### (1) 出穂期と収穫適期のめやす

- ア 平坦地の早生品種では、出穂期後5～24日後の20日間の平均気温が概ね26℃を超える「高温登熟」に該当する見込み。高温登熟になると基部未熟や立毛胴割れの発生が増加するため、表1、2を参考に収穫適期を判断し刈遅れに注意する。
- イ 「高温登熟」で推移した場合、表2のとおり収穫適期をめやすより50℃（2日程度）早める。
- ウ 積算気温はめやすとし、実際の収穫適期はほ場ごとに籾黄化率を確認して判断する。

表1 本年の出穂期のめやすと平温年での収穫適期のめやす（8月5日現在）

	品種名	出穂期のめやす	出穂期後の積算気温	収穫適期のめやす
早生	五百万石	7月18日～20日頃	975℃	8月23日頃から
	つきあかり(平坦地)	7月18日～20日頃	1,000℃～1,100℃	8月26日頃から
	つきあかり(中山間地)	7月30日～8月1日頃	1,000℃～1,100℃	9月10日頃から
	わたぼうし	7月21日～23日頃	975℃	8月26日頃から
	こしいぶき	7月26日～28日頃	975℃	9月1日頃から
中生	こがねもち(中山間地)	8月4日～6日頃	1,000℃	9月16日頃から
	コシヒカリ(平坦地)	8月1日～3日頃	1,000℃	9月9日頃から
	コシヒカリ(中山間地)	8月8日～10日頃	1,000℃	9月21日頃から
	にじのきらめき	8月4日～6日頃	1,100～1,200℃	9月19日頃から
晩生	新之助	8月7日～9日頃	1,050～1,100℃	9月18日頃から
	みずほの輝き	8月10日～12日頃	1,050～1,200℃	9月22日頃から

表1、表2 共通

- 積算気温の平坦地は高田のアメダス、中山間地は関山のアメダスのデータを用いて収穫適期のめやすを算出。（8月6日以降は平年値を使用）
- ほ場ごとに収穫適期は異なる。
- 今後の天候で収穫適期は変動する。

表2 本年の出穂期のめやすと高温登熟年での収穫適期のめやす（8月5日現在）

	品種名	出穂期のめやす	出穂期後の積算気温※	収穫適期のめやす
早生	五百万石	7月18日～20日頃	925℃	8月22日頃から
	つきあかり(平坦地)	7月18日～20日頃	950℃～1,050℃	8月24日頃から
	つきあかり(中山間地)	7月30日～8月1日頃	950℃～1,050℃	9月8日頃から
	わたぼうし	7月21日～23日頃	925℃	8月24日頃から
	こしいぶき	7月26日～28日頃	925℃	8月30日頃から
中生	こがねもち(中山間地)	8月4日～6日頃	950℃	9月14日頃から
	コシヒカリ(平坦地)	8月1日～3日頃	950℃	9月7日頃から
	コシヒカリ(中山間地)	8月8日～10日頃	950℃	9月19日頃から
	にじのきらめき	8月4日～6日頃	1,050～1,150℃	9月17日頃から
晩生	新之助	8月7日～9日頃	1,000～1,050℃	9月16日頃から
	みずほの輝き	8月10日～12日頃	1,000～1,150℃	9月20日頃から

※ 高温登熟に該当する場合、通常より50℃（2日程度）早めた出穂期後の積算気温をめやすとした。

### (2) ほ場ごとの収穫適期判断

収穫適期は穂全体の85～90%が黄化し、穂の基部に緑色の籾が一部残っている頃となる。

#### 黄化率の確認方法

- ① 1次枝梗が9本程度の平均的な穂を選ぶ
- ② 上位3～4本目の1次枝梗に着く2次枝梗を探す（右図点線部分）
- ③ 点線部分内の籾が黄化した時がその穂の刈り取り適期
- ④ 10本程度の穂を調べ、8本以上が当てはまれば、そのほ場の収穫適期

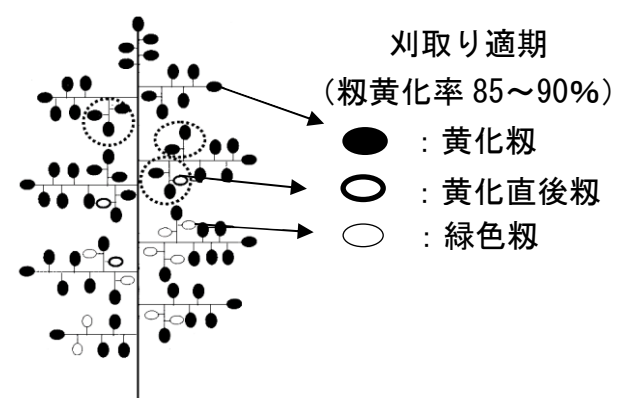


図2 収穫判断の方法と収穫適期の穂